

〔問1〕

次の（1）から（10）の林学に関する語句群の中から5つ選び、その意味を簡潔に説明せよ。

- （1）定量間伐
- （2）特定母樹
- （3）山元立木価格
- （4）森林・林業基本計画
- （5）流域治水
- （6）都道府県立自然公園
- （7）森林ESD
- （8）準絶滅危惧種
- （9）生物多様性地域戦略
- （10）埋土種子

〔問2〕

次の（1）から（10）の問いに答えよ。

著作権保護のため、非公表（択一式 10問）
3ページ以降に例題を掲載しています。

〔問3〕

次の（1）から（3）の問いの中から1つ選び答えよ。

- （1）近年、短時間強雨の発生回数が増加傾向にあることに加え、気候変動の影響により大雨の発生頻度が更に増加するおそれが高いことが指摘されており、今後、山地災害の発生リスクが一層高まることが懸念されている。このような中、大阪府では、個人府民税の超過課税である「森林環境税」を活用し、危険溪流の流木対策事業などの取組みを進めている。

そこで、近年の山地災害の発生形態の特徴を3つ以上挙げた上で、今後の気候変動を見据えた森林の土砂流出防止機能や洪水緩和機能の維持向上のための対策について、合わせて **800字程度** で説明せよ。

- （2）日本で戦後造成された人工林の多くが利用期を迎える中、主伐による丸太生産量が増加する一方で、人工造林面積は主伐面積の3～4割程度となっており、林業に適した場所であっても、再造林が行われていない状況にある。これは、地拵えから下刈りまでの再造林初期費用の負担が大きいことがその要因の一つだと考えられている。

そこで、近年進められている「造林・育林の低コスト化に向けた取組み」について、以下の語句群から3つを選び、それぞれの①取組み内容、②コスト縮減効果、③普及する上での留意点について、合わせて**800字程度** で説明せよ。

- 【語句群】
- ・ 伐採と造林の一貫作業システムの導入
 - ・ コンテナ苗の利用
 - ・ 低密度植栽
 - ・ 下刈りの省力化
 - ・ エリートツリーや早生樹の利用

- （3）外来種には、人間がさまざまな目的のもとに意図的に導入（輸入や移動）しているものと、人間の意図していないところで物資に付着・混入し、非意図的に侵入してしまうものがあり、いずれも外来種被害予防三原則に基づいた対応が求められる。

そこで、外来種被害予防三原則である「入れない」、「捨てない」、「拡げない」について、それぞれの内容と具体的にどのような対策を取ることが重要か、合わせて **800字程度** で説明せよ。

以下の問題は例題です。（令和4年度大阪府職員採用試験で実際に出題された問題とは限りません。）

例題 次の文章は、森林の遷移に関する記述である。文章中の空欄 a～c に入るものの組合せとして妥当なのはどれか。

森林の遷移が進行し、極相と呼ばれる状態になると、耐陰性の高い樹種の比率が なり、森林を構成する樹種の階層構造が になる。そのような状態において上層木が枯死すると、 更新が生じ、二次遷移が進行する。

- | | a | b | c |
|----|----|-----|------|
| 1. | 高く | 明瞭 | ギャップ |
| 2. | 高く | 不明瞭 | ギャップ |
| 3. | 高く | 不明瞭 | 萌芽 |
| 4. | 低く | 明瞭 | ギャップ |
| 5. | 低く | 不明瞭 | 萌芽 |

【正答：1】